

APRICOT2025 参加支援プログラム
参加報告書

2025 年 3 月 14 日
株式会社 QTnet
丸山 彩雅

はじめに

本報告書では、2025 年 2 月 19 日から 2 月 27 日までマレーシア・ペタリンジャヤで開催された APRICOT 2025 について、参加したカンファレンスの報告を行う。参加セッションの概要、特に印象に残ったセッションの内容、今回の経験を今後どのように活かしていきたいか、所感について述べる。

1. 参加したセッション

下記に、参加したセッションについて、記載する。

Day1(2/23)

- APRICOT Fellows Skills Workshop

Day2(2/24)

- ISOC@APRICOT: Pulse Internet Measurement Forum
- Opening Ceremony and Plenary
- APRICOT Plenary
- Opening Social & 30th APRICOT Celebration

Day3(2/25)

- Measuring & Automating
- APRICOT Peering Forum 1
- APRICOT Peering Forum 2

Day4(2/26)

- APNIC Global Reports
- APNIC NIR SIG
- Closing Plenary
- Closing Social

Day5(2/27)

- APNIC AGM

2. 特に印象に残ったセッション

下記に、参加したセッションの中でも特に印象に残ったセッションを示す。

2-1. Day1 - APRICOT Fellows Skills Workshop

本セッションは、APNIC のフェローと共にプレゼンテーションスキルを習得するためのワークショップであった。内容は、プレゼンテーションの基本的な方法からボディランゲージ、アイコンタクトなど、言葉以外でのコミュニケーションの重要性にまで及んだ。海外経験の少ない私にとって、非常に有益な学びの機会であった。

セッションは自己紹介から始まり、様々なお題に対する議論や議論に対するプレゼンテーションを行った。その結果、英語に対する恐怖心が以前よりも無くなり、相手に伝わるまでコミュニケーションを諦めないという自信が芽生えたと思う。本セッションは、毎年 JPNIC 職員の皆様が手配してくださっているが、参加して良かったと心から感じている。

本セッションを通じてアジア圏のエンジニアや学生とのつながりができたことも大きな成果であった。これらのつながりや学びは、今後のキャリアにおいて非常に貴重なものになると実感している。

2-2. Day2 - Protecting & Expanding Submarine Cables (ISOC@APRICOT: Pulse Internet Measurement Forum)

本セッションは、海底ケーブルを取り巻く現状と将来性について述べたセッションであった。本セッションでは、海底ケーブルの障害原因の多くが外的な要因であること、そしてその対策としてルート選定や地域住民とのコミュニケーションが重要であるという点を示しており、インフラの安定運用を考える上で非常に有益な内容であると思った。

また、コンソーシアムなケーブルではなく、オープンケーブルという新しいビジネスモデルの登場は、業界の大きな変化を示すものである。コンテンツプロバイダーが自らケーブル投資を行うことで、従来の通信事業者の役割も変化していくと思う。競争激化は避けられないものの、新たな協業の可能性も生まれるという点に期待を感じた。

技術革新についても、標準的なシングルモードファイバーから、マルチコアファイバー、Few-Mode ファイバーなど、将来を見据えた技術開発が進んでいることが分かった。物理的な限界はあるものの、技術の進歩によって更なる大容量化が実現されることを期待する。

全体として、海底ケーブル業界の将来性を感じさせるセッションであった。今後の動向を注視し、自社事業、延いては通信業界への影響を検討していく必要性を感じた。

2-3. Day3 - Evolution of Peering and Interconnection Ecosystem in Pakistan (APRICOT Peering Forum)

本セッションはパキスタンにおけるインターネット事情に関するセッションであり、大変興味深いものであった。まず初めに、予想を上回る携帯電話とブロードバンドの普及率に驚かされた。1 億 9500 万人もの携帯電話加入者数、そして 1 億 4400 万人に達するブロードバンド加入者数は、パキスタンにおけるデジタル化の進展を如実に示していると言え

る。また、3つのIXP(Internet Exchange Point)の存在、そしてムルタンに計画されている新たなIXPは、国内のインターネットトラフィック最適化に向けた重要な取り組みである。トラフィック遅延の改善は、ユーザーエクスペリエンス向上に直結するため、更なるIXPの展開とデジタル化促進が本セッションを通して伺えた。

2022年の洪水被害によるインターネット網寸断の経験から、冗長ルートが採用されたことは、耐久性や継続的な運用強化の観点から良いと思った。自然災害への対策は、安定したインターネット接続を提供する上で不可欠である。

パキスタンのデジタル接続ハブ化構想は、非常に野心的で将来性のある計画であると考ええる。5Gスペクトルオークションの開始、そしてキャリアニュートラルデータセンターへの投資促進は、海外企業にとって魅力的なビジネスチャンスとなるだろう。政府の協力的姿勢も、この構想を成功に導く重要な要素となるに違いない。

全体として、パキスタンのインターネット環境は、課題を抱えながらも着実に進化を続けていると言える。国内のみならず、国外においても、インターネットの最新動向をチェックし、技術者としての知識をさらに深めていきたいと考える。

3. 今回の経験を今後どう活かしていきたいか

今回の経験を通じて改めて、インターネットが人と人とのつながりの場であることを実感した。また、海外エンジニアとの交流のハードルは思っていたよりも高くないことを感じた。カンファレンスでは、アジア・太平洋地域のインターネットに関する最新技術動向やポリシーについての議論などを現地で直接見ることができた。この経験により、今まであまり持っていなかった国外のインターネット事情への興味・関心が非常に高まった。特に、様々な国の技術者の発表を聴くことで、彼らが直面している課題やそれに対する解決策を学ぶことができた。これにより、自分自身の技術者としての視野も広がったと感じる。今後は、国内外を問わずインターネットの最新動向に常にアンテナを張り続け、最新の情報をキャッチアップすることが重要であると再認識した。

今回の経験をもとに、技術者としてさらに成長し、業界の発展に貢献していく意欲が湧いてきた。加えて、地域NOGや国際会議等に今後も参加し続けることで、同じ志を持つエンジニアとのつながりを強化し、協力し合うことで、より大きな成果を生み出せると確信している。

4. APRICOT2025の所感

今回のAPRICOT2025参加支援プログラムでは、5日間にわたり国際会議への参加および国内外のエンジニアとの交流という貴重な経験をすることができ、非常に有意義であった。また、事前情報交換会や会期中に細やかなサポートを提供してくださったJPNICの職員の皆様には、深く感謝している。一人では不安のあった国際会議の参加も皆様のサポートのおかげで、最大限に活かすことができたと感じている。今後もこの貴重な経験を活か

し、技術者としての成長と業界の発展に貢献していきたい。

5. 謝辞

今回、貴重な機会を頂いた APRICOT 2025 参加支援プログラムへご協賛いただいている企業様・団体様に心より感謝申し上げます。また、ご支援いただきました JPNIC 職員の皆様、APRICOT 2025 に参加するためにご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。最後に、APRICOT 2025 において私と関わってくださった全ての皆様に心から感謝の意を表します。